The 7th Basho-an International English Haiku Competition 第7回 芭蕉庵国際英語俳句大会

受賞 結果 result

世界43の国と地域から、1,591句の応募をいただきました。 We received 1,591 haiku(phrases) from 43 countries and regions.

Australia	オーストラリア	New Zealand	ニュージーランド
Belgium	ベルギー	Nigeria	ナイジェリア
Bosnia and Herzegovina	ボスニアヘルツェゴビナ	Northern Ireland	北アイルランド
Brazil	ブラジル	Pakistan	パキスタン
Bulgaria	ブルガリア	Poland	ポーランド
Canada	カナダ	Romania	ルーマニア
Croatia	クロアチア	Russia	ロシア
Czechia	チェコ	Serbia	セルビア
England	イングランド	Slovenia	スロベニア
France	フランス	South Africa	南アフリカ
Germany	ドイツ	South Korea	韓国
Greece	ギリシャ	Sri Lanka	スリランカ
Hong Kong	香港	Sweden	スウェーデン
Hungary	ハンガリー	Switzerland	スイス
India	インド	Tanzania	タンザニア
Indonesia	インドネシア	UAE	アラブ首長国連邦
Iran	イラン	UK	イギリス
Israel	イスラエル	USA	アメリカ
Italy	イタリア	Vietnam	ベトナム
Japan	日本	Wales	ウェールズ
Latvia	ラトビア		
Malaysia	マレーシア		
Netherlands	オランダ		

たくさんのご応募、ありがとうございました。 Thank you for your applications.



Each day drifts by 来る日も来る日も漂う

In the mirage of the desert 幻の砂漠を A man and his boat 一人の男と舟

Momeni Khadijeh Iran

受賞者からのメッセージ Winning message

このたび、栄えある芭蕉庵賞の受賞者の一人に選んでいただき、深く光栄に思うとともに、心から感謝申し上げます。今だに世界中の詩人を導き触発する松尾芭蕉の輝かしい遺産を引き継ぐこのコンテストで私の俳句が評価されたことは、誠に身の引き締まる思いです。俳句という芸術を讃える、このような素晴らしい場を作り上げてくださった主催者の皆様、審査員の皆様、関係者の皆様に心より感謝いたします。この受賞を励みに、これからも自然や人が経験することの美しさを探求し続け、時を超えた詩形を通じて人々と共有していきたいと思います。



長谷川櫂先生 講評

海を漂う舟を描く。海は「青い砂漠」であるというのだ。発想が大胆で香り高い俳句である。日本語であれ英語であれ、当然のことだが、俳句で重要なのはまず第一に発想である。発想に詩の爆発あるいはその片鱗がなければ俳句は成り立たない。

入選 Ten Winners sleepless night -眠れぬ夜 Whale awoken 鯨が目を覚ます from window to window 窓から窓へ perpendicular dreaming 垂直の夢を見て the moon's wandering 月がさまよう gently submerges 静かに沈む Tosti Maria Rob Australia Italy late winter storm 遅く来た大雪 first light -夜明けー a pair of antlers stuck 一対の鹿の角が the skylark dives 雲雀が in the thicket 藪で動けなくなる in its own song 自分の歌の中に飛込む UAE Nitu Yumnam Matei Cristian Romania clutching the air 空気をつかむ flamingoes フラミンゴが次々に 大鴉 fall on the sea in the sound 湖に降り立つ a raven ピンクのざわめきとなって on the snow 雪の上 of pink by pink Ravi Kiran India Kajzer Adam Poland rugby scrum 私のテーブルで my younger son 下の息子 at my table ラグビーのスクラム like a grouse ready 羽ばたく準備のできた a family dinner 家族の夕食 to take wing 雷鳥のよう France Alicia Gatalica Goran New Zealand Croatia September morning 九月の朝 fake news フェイクニュース the first chill in the air 二人の間の the scream of gulls 魚のはらわたを奪い合う 鷗の叫び声 between us 空気に初めての冷気 fighting over fish guts Rotsteeg Marjolein Netherlands Schopfer Olivier Switzerland



graduation day
dandelion seeds over
the barbed wire

卒業の日 たんぽぽの種は

the barbed wire有刺鉄線を越えるCezar Ciobica

受賞者からのメッセージ Winning message

この賞を獲得してとても幸せです。この素晴らしい詩(俳句)を生んだ日本のコンペティションでの受賞は本当に素敵なことです。受賞した作品は詩を書き続けることに自信を与えてくれました。私の作品を評価してくれたことに深く感謝いたします。



藤田直子先生 講評

卒業式が終わって外に出ると、たんぽぽの穂絮が飛んで行くのが見えました。それを見て卒業生は、私もこれからは広い世界に出て活動していくことができると思いました。風に乗ってどこまでも飛んで行かれる穂絮は、有刺鉄線も潜って行きました。その種のように、若者は世界のあちこちで分断を作っている壁を解消する力があります。実際の風景を言葉で描きながら、未来への明るい期待を含んでいるところに感動しました。

入選 Ten Winners

Lone farmer's tear	孤独な農夫の涙が	the battlefield	遥か上	
Nourishing the soil	土の栄養となる	a sky for all of us	空は我々みんなのもの	
Melissa Rose Lawrence	USA	Vladislav Hristov		Bulgaria
my younger son	下の息子	silence	子供部屋が	
like a grouse ready	羽ばたく準備のできた	in the children's room,	静か	
to take wing	雷鳥のよう	angels	天使だ	
Gatalica Goran	Croatia	Lilia Racheva		Bulgaria
boat on the boat	ボートの上にボート	afterglow -	余韻	
sails in the clouds	雲の中の帆船	the lingering sweep	一冊の良書の残した	
on a calm lake	穏やかな湖	of a good book	ひと掃き	
Badovinac Katica	Croatia	Gatalica Goran		Croatia
freshly mown hay –	刈りたての干草-	spring promise	春の約束	
its scent slowly fills	その匂いがゆっくりと	I allow two frogs	二匹の蛙に	
the old graveyard	古い墓地を満たす	to stay at my backyard	庭にいていいよと	
Matei Cristian	Romania	lyer Lakshmi		India
autumn chill	秋の冷え	Whale awoken	鯨が目を覚ます	
the scarecrow leans against	案山子はもたれる	perpendicular dreaming	垂直の夢を見て	
its own shadow	自分の影	gently submerges	静かに沈む	
野村齋藤	Japan	Rob		Australia



a worm curling itself into a pea pod

spring dusk

えんどう豆の莢の中にいる

春の夕

虫は体を丸めて

Parashar Vandana

India

受賞者からのメッセージ Winning message

この光栄を下さった芭蕉記念館と審査員のドゥーグル・リンズィー氏に心より感謝いたします。この賞を二回も受賞したことに謙遜と感謝の気持ちで一杯です。2022年の第四回芭蕉庵国際英語俳句大会の一度目と2025年の今回です。このコンペティションを成功に導いた関係者の皆さんと審査員の努力に感謝し、拍手を送ります。芭蕉庵の幸運と今後のご尽力を望みます。



リンズィー先生講評

微妙なことをとても巧みに表現した詩であり、自然と完全に調和しています!「春の夕」という季語の選択も完璧です。晩春の名残惜しむかのような温かさは眠りを誘い、春の昼の終りに私たちは春そのものの終りを思い、また、蛾や蝶や蜂など何らかの成虫になる前の幼虫という「春の段階」の終りを想起します。豌豆の丸味は幼虫の曲線によっても強調されています。このような昆虫の変態の、その虫が自ら豌豆の莢に変身したのではないか、もしくは、それがただしばらくの間落ち着いているだけなのか、思わず二度見してしまうときの神秘的な感触もあります。

入選 Ten Winners

freshly mown hay –	刈りたての干草-		visiting day	面会日	
its scent slowly fills	その匂いがゆっくり	ع ر	a grasshopper lingers	キリギリスが敷居の上を	
the old graveyard	古い墓地を満たす		on the threshold	ふらふら歩く	
Matei Cristian		Romania	Capotă Daniela Lăcrămioara	a	Romania
breaking news	ニュース速報		turtle drifting backwards	亀が漂いながら	
a group of dragonflies	蜻蛉の群れが		a summer's evening	後ろに進む	
hovers overhead	頭上に漂う			夏の晩	
Friedenberg, Jay		USA	Berglund Jerome		USA
the late train	遅い列車が		heavy rain	どしゃ降り	
rolls into the station -	駅に入って来る‐		the heron hunches	鷺は裸の枝の下で	
bindweed in bloom	昼顔が咲いている		beneath bare branches	背を丸くしている	
Maretic/ Tomislav		Croatia	Paula Sears		USA
fallow field	休閑地		quince jelly	マルメロのゼリー	
a bumper crop	星の		the necessary force	一日に必要な力	
of stars	豊作		for the day		
Valentine / Kevin		USA	Gaiardoni Barbara Anna		Italy
New Year's Day	新年···		soft summer rain	やわらかな夏の雨	
I notice age spots	バナナのシュガース	ポットが	umbrellas up	雨音を聞くために	
on the bananas	気になる		to hear it fall	傘をさす	
Bremson / Ed		USA	Tony Williams		UK